

ふれあい

平成22年 2月 第287号

大代地区コミュニティ推進協議会

〈広報部〉

事務局：大代地区公民館

☎364-8442

〈掲載目次〉

- 防災アンケートより 1
- 新年を祝う会を終えて 2
- どんと祭についての御礼とお願い . 2
- 甦るシベリアの思い出 3
- 大代の歩み (二十三) 4

- ふれあい短歌 (美人特集) 4
- ふれあい俳句 4
- 瓢箪の魅力 5
- トイレ掃除を通して 5
- 大代地区公民館まつりのお知らせ . 5

防災アンケートより

大代南区町内会会長 橋本 浩

防災対策部長 田村 昭男

防災に対する心の安全、安心の一つは
 普段からの心構えと避難行動の訓練が大
 切と思います。

南区では昨年十月防災訓練を行う予定
 でしたが新型インフルエンザ流行のため
 中止せざるを得ませんでした。それでも
 防災に関する意識調査を全戸を対象に十

五日から同月十五日まで実施いたしま
 した。

南区五百六十世帯の約半数二百十世帯
 から回答をいただきました。ご協力あり
 がとうございます。このアンケートの集
 約結果は次の通りです。

① 南区の多くの方々は訓練の必要性を
 九十四%の人が感じていて、同時に九十
 七%の人が避難場所の確認ができていま
 す。また、避難についても直ちに飛び出

大代南区町内会各位

平成21年11月 | 日

大代南区町内会会長 橋本 浩

町内会防災対策部長 田村昭男

防災対策アンケート調査協力のお願いについて (依頼)

標記について今回防災対策の一環として、皆様から非常時の対処方法等のご意見を
 お尋ねし、今後の防災活動に活用したいと思っておりますのでご協力をお願いいたしま
 す。なおこの調査は他に使用することはいたしません。

下記項目について、これと思うものに○で囲んでください。

1. あなたは ① 男性 ② 女性
2. あなたの年齢は ①10~20 ②30~40 ③50~60 ④70才以上
3. あなたの家族は ①1人ぐらし ②2人 ③3人 ④4人 ⑤5人以上
4. あなたは区内の一時避難場所を知っていますか ①知っている ②知らない
5. あなたは防災訓練を必修と思えますか ①おもう ②おもわない
6. あなたは地震が起きたら直ぐ外に逃げますか ①にげる ②にげない
7. あなたは地震が起きたらテレビ等直ぐつけますか ①つける ②つけない
8. お宅では耐震補強工事をしていますか ①している ②していない
9. お宅では防災について家族と話し合いますか ①話してる ②話してない
10. お宅では非常時連絡先がすぐわかるようになっていますか ①なっている ②なっていない
11. お宅では消火器がありますか ①ある ②ない
12. お宅では消火器の使い方がわかりますか ①わかる ②わからない
13. お宅では防火の火災感知器を取り付けましたか ①取り付けてる ②取り付けてない
14. お宅では非常時の持出品を揃えてありますか ①ある ②ない
15. お宅では停電の時の用意がありますか (懐中電気など) ①ある ②ない
16. お宅では断水になった時の用意がありますか ①ある ②ない
17. お宅では非常食を何食分か用意がありますか ①ある ②ない
18. お宅では地区の防災訓練に参加したことがありますか ①ある ②ない

ご協力大変ありがとうございました。もしお留守でした時は後日 | 5日までに班長さん
 までお届けください。 あなたののおなまえは書かないで下さい。

し逃げないという人が七十二%いました。良く、情報を確認して行動するという人が九十六%となっています。

- ② 「耐震補強工事をしましたか」では経費の関係や借家上の問題であまり進んでいませんが、こと人命に関わる事柄なので今後は必要性のPRに努めたい。
 - ③ 家族内で防災についての話し合いと非常時の連絡先早見閲覧表作成はいずれも七十%台の家庭が実施していました。
 - ④ 消火器の備えとその取り扱いは八十%の方が準備周到を図っていました。
 - ⑤ 火災感知器の取付け状況は未だ約三十%の方が完了していないので今後取付けについて促進をはかってゆきたいと思えます。
 - ⑥ 非常時の持出品の準備は約半数の方が未だ整えていませんでしたが持出品は範囲が広いので特に大切なものを最小限にするようPRしたいと思えます。停電時の用意または断水時の水・非常食は、ほとんどの人は準備しています。
 - ⑦ 防災訓練には半数の方が参加していないので今後は実施時期・内容を充分検討しPRを徹底して進めて行きたいと思えます。
- 最後に、今回アンケートで知ることの出来た問題を今後はひとつひとつ解決して行きたいと思えます。また今回のようなアンケート調査も重要であると感じ

ました。

新年を祝う会を終えて

コミュニケーション推進協議会

推進部長 小野 菊郎

平成二十二年の新年を迎え祝う会を開催いたしましたところ、百五十一名の方が参加されました。昨年は、新型インフルエンザ流行から、学級閉鎖や各催事が数多く中止となり参加者減少が予想されましたが、新しい年に懸ける皆様の熱意から多くの方のご参加を頂きました。厚く御礼を申し上げます。開催趣旨は、地区住民が交流を図り、地域の連帯を醸成し住みよい社会をつくることにあります。しいては、共に助け合う精神が生まれ、安全、安心に生活出来る環境を整えることに繋がるものと信じております。今年も大代地区においてご活躍されております団体、各階層の方が一堂に会する事が出来たと存じます。中でも、大代駐在所長、東小学校長、東豊中学校長、企業関係の社長様方々初めてご参加を賜りました。

季節柄寒さが身に沁みますので、暖かい飲物で身体を暖めていただくよう、婦人会の方には豚汁、玉子酒、酒は燗をしてお出しただくことをお願いしてご協力を頂きました。例年通り、婦人会の方、育成会、事務局、班長さん、各区長さん、

協議委員会の方々には種々ご協力賜りましたこと、この場をお借りしまして厚く御礼申し上げます。



どんと祭についての

御礼とお願ひ

柏木神社総代 小野 菊郎

恒例のどんと祭も無事終了いたしました。皆様のご協力に感謝申し上げます。どんと祭(松焚祭)は、正月伝統行事、永年日本人の文化として親しまれております。これからも後世に残さなければならぬ大事な行事です。

昨年は、強風のため消防団により放水をお願い致しました。ご存じの通り神社境内は、樹木から枝葉が落ちており、火災の危険があります。今年は、防火壁を制作し使用しました。万全ではありませんが、防火上の心配事が一部なくなりました。

河北新報で、仙台市の愛宕神社において、投げ入れられたものが破裂し女性の顔に当たり怪我をしたと報道されておりました。人命に係わることになれば一大事です。愛宕神社宮司さんが、ごみ焼却ではないと嘆いておられました。

どんと祭に持参されるものは、神棚に供えられた正月飾り関係に限定していただきます。何でも持参すれば燃やせると考えない様お願い致します。中でもみかん、もちは燃える温度になりません。取り外されご自分で処理してください。灰処理には、例年五万円前後の費用を要して居ります事をご理解下さい。尚、どんと祭は、消防団、神社総代の方がボランティアで安全を期し作業しております。是非皆様方のご理解賜りますようお願い申し上げます。



甦るシベリアの想い出

大代南区 後藤 清一

八月二十四日、今日はブラゴベシエンスク市内の墓参である。昨日と同じガタバスで相変わらず荒野の悪路をブツ飛ばす。アムール洲は日本全土と同面積とか。バスは変わらぬスピードで走り続ける。そんなバスの中で、同胞の蜂谷さんが刑期を終え、釈放された時に偶然知り合い結婚した女性が近くの村に住んでいるので訪ねてみる事になった。蜂谷さんは商社マンの一民間人であったが、スパイ容疑で囚われ連日厳しい査問・強制署名で十年の刑で服役収監されたのである。

ある日の深夜ロシアの囚人、また我々抑留者一行は作業移動で起こされる。そこはソ連人でも泣いて恐れるタイガの密林で地獄の伐採作業隊である。夏は草ムラから出る大型のヤブ蚊やブヨに攻められ、冬は零下四十度の厳寒に耐え、どんなに寒かろうが不法なノルマで狂い死にするか大概ぶつ倒れてしまう。皆は馴れない重労働・飢餓・疲労と望郷の失望から皆の体は日毎に弱っていった。十月ともなれば雪も舞い伐採のため場所を転々と変えなければならぬ。依然としてノルマはきつく冬山の作業はどうにもならず、皆雪の中を這いずり廻って伐つた。動かなければ凍った人間になるからだ。こんな厳しい労働に皆体調は極限に

達し、体の関節部分だけが以上に太く腕は箸のように細く、薄くなった胸板は肋骨が鮮明に突起している。腹は栄養失調の為ふくれ、尻の肉はこけ、骨は尖って痛々しい。眼をつり上げ恐ろしいヒステリー症状になる。こんな環境の中で生き抜く為、仲間をその同胞の誰かを殺しその肉を喰い、血を吸う正に餓鬼道そのもの。そんな恐ろしい流言も飛び交う。人間とは一体何なのか。全く地獄絵そのもの……

こんな風雪の中で皆の体重は四十キロを切るまでに落ち込み、栄養不足の為か皆は不明な皮膚病に苦しむのである。だが奥深い北のシベリアは全ての地下資源に富み、常時五万から六万の労働力を必要としていたと聞く。したがって当地方での抑留者の死亡率は、異常に高く自分が掘ったツンドラに埋められ、凍土化してしまうのか……。こんな苦境な悪条件の中で耐えた生還者達があの思いを忘れまいと色々な活動を続けている。生と死の境を生きた過酷な体験がお互いの心を繋ぎ合わせている。夜は夜でソ連政治部の強烈な共産主義の教育があり睡眠時間まで奪われ、生きる希望も意欲もときりかけた囚われの生活の中で死に行く者達の同胞の冷たい視線を浴び続けた。全ての事に対して人間を人間扱いしないスターリン体制は非道そのものであった。

長く厳寒の冬もどうかクリアし、短い春の兆しを感じずる四月の空は高く晴れ、まだ少し肌寒い程の風が吹き抜けた。

続く

大代の歩み (二十三)

大代南区 渡邊 巖

如月に入って屠蘇気分も解消——しかし暮れも正月もない凶悪事件事故の続発……。その上、相変わらず飽食時代で貴重な食材を浪費した食べ物が巷に溢れた結果、賞味期限経過を理由にその数パーセントが毎日廃棄されているという。

そこで、我々の祖先が今から約三百年前（宝暦・天明・天保の頃）にあつた大飢饉の惨状から、大代の先達が辿つた苦難の歴史を知ることにも無駄ではあるまい。

さて、この稿の典拠である「風土記御用書出」が作成された安永年間以前の元和年間（一六〇〇年）頃から東北地方は度々飢饉に見舞われたが、伊達藩全域も略々同様に次のような災厄を被つたのである。

(一) 宝暦の飢饉

宝暦五（一七五五）年は四月末から雨が続き、七月初めに少し暑い日が六、七日あつただけで低温の日が続き、早くも七月頃には食物が不足し、糲や藁を刻んで糧にしていた。でも元禄一三（一七〇〇）

〇）年より一四（一七〇一）年にかけての大不作よりはまだ実りが良かった。

だが宝暦五年には、凶作に備える『困い米』皆無の状態でその上に冷害凶作である。救済も不十分で、餓死者や乞食、流亡民が冬の訪れと共に増えていった。

その『困い米』皆無に至つた理由は、幕府関係寺・社の普請、河川改修等の強制による財政負担の他、江戸・大坂など大消費地市場の米価急落による藩財政の減損であつた。藩は厳しい儉約令を敷き、経費を半額に削減する事としたが、その回復は仲々困難であり、そうした中に天明の大飢饉が襲つて来た。

(二) 天明の飢饉

天明三（一七八三）年の凶作は、やはり「やませ」と長雨続きの冷害に始まつた。

続く

ふれあい短歌 (美人特集)

大代西区 藤田 遊子

陰に立ち 夫を支えて 半世紀
ファーストレディは 小町の如し
選ばれし ミスユニバース 日本代表
カメラを握り 芸術一筋
家事と仕事 両立させ居る 美人妻
クレオパトラも 及ばざるなり
おピエラに 誘ふ美人の コマーシャル
美しき横顔 モナリザの如し

美しき 母の心に魔が差して
心機一転 大学に学ぶ

ふれあい俳句

大代西区 松浦 富男

煤逃げの 監視孫の 手暖かし
羽織る物 一枚欲しき 夜寒かな
ほどほどの 幸に生き 七日粥
冬最中 昼の目を読む 日差しかな
煩惱を断たざるままの 去年今年

笠神西区 本郷 勝子

母心仏心 千手観音 年新
マンシヨンの

山茶花の生垣 華やいで

丑三に下馬音響く 元旦成り

椿咲く 突然変異か 色変り

菜の花の香り満喫園芸センター

八 幡 森 季子

雪の嶺 せまりて見ゆる 去年今年
元日や 参拝途上 急須買ふ
我が摘みし 七草粥も幾たびか
短パンの

少女着ぶくれは 死語なりや
荒波や サーフアー達の 事始

瓢箪の魅力

広報部 渡辺 正平

瓢箪から駒が出るという諺（意外なところから意外なものが現れるの意）がある。また戦国時代武将豊臣秀吉の旗印が瓢箪です。この瓢箪は成功と繁栄の守り神として、多くの人々からあがめられてま



この瓢箪を用いて作った大変ユニークで色鮮やかな人形五体を先日渡辺清さんから頂きました。渡辺清さんは私の友人です。趣味の家庭菜園をやる傍ら瓢箪を

栽培して、毎年上品で可愛味のある人形や置物などの作品を作っては公民館、集会所に展示しています。また、友人達にあげることで多くの人々を魅了させ、元氣と勇気を与えてくれております。もし作品の現物に好感をお持ちの方はご一報下さい（ふれあい広報部渡辺迄）。

トイレ掃除を通して

大代に在住の小畑さんは緑地公園や総合体育館、市民プール、テニスコートなどのトイレ掃除を土曜・日曜と毎週行っています。

きっかけは鍵山秀三郎さんのファンでラジオの番組で鍵山さんの話を聞き深い感銘を受けたからだそうです。

すぐに緩衝緑地公園のトイレ掃除を始め、今ではいくつもの施設のトイレの掃除を行っており、掃除に学ぶ会へも参加されています。



大代地区

公民館まつりのお知らせ

一期 間

平成二十二年三月十三日（土）
十四日（日）

二 作品展示

展示時間

平成二十二年三月十三日（土）
午後一時～午後五時

平成二十二年三月十四日（日）

午前九時～午後三時

内容／手編・華道・水墨画・ペン習字
パッチワーク・はがき絵など

三 舞台発表

平成二十二年三月十四日（日）

午前十時～（予定）

内容／少年剣道・日本舞踊・大正琴
太極拳・カラオケ・社交ダンス
レクリエーションダンスなど

※開催内容は変更になる場合があります。詳しくは次回広報「ふれあい」三月号に掲載致します。